

# 乾燥地を拓く

3

鳥取大学・ITPだより

私は、中国甘肅省にある蘭州市で研究を行っています。蘭州市は甘肅省の省都であり、人口は300万人を超える大都市です。

中国＝発展途上国をイメージしていた私ですが、実際に蘭州市で暮らしてみると、日本と変わらないくらい生活が豊かで便利である

ことに驚きました。街の中心部には大きなショッピングモールやスーパーが立ち並び、品ぞろえも豊富です。

一方、市街地から少し離れると、そこには昔ながらの市場や住宅地があります。市場では、肉は冷蔵されずに、また魚はバケツに入っただまま売られていることもあり、衛生状態が心配になることがあります。

また、決してきれいとはいえない小さな家々が密集している、古

## 干上がる黒河



慢性的な水不足解消のため、黒河の上流にはダムが建設されている。河川水の利用量は政府によって割り当てられるため、灌漑（かんがい）農業が行われる4～7月以外はほとんど水が流れることはない＝2005年8月、甘肅省張掖市を流れる黒河の支流（焦文献撮影）

くからの住宅地もあります。このように、蘭州市は豊かに発展した地域と、発展途上の地域が混在しています。

蘭州市のある甘肅省では、50年ほど前から経済が発展し始め、それに伴って人口が増加してきました。近年の経済成長は特に目を見張るものがあります。

しかし、急激な発展には弊害が伴います。甘肅省の年間降水量は350mm程度であり、可能蒸発量が降水量を上回る乾燥地です。そのため、人口が増加し、経済が発展するにつれて水の需要が増した結果、1950年代と比べ黒河本流の水量は40%以上も減少し、本来湖に流れ込んでいた本流は今では湖に届かず途中で途切れており、30以上の支流が干上がってしまいました。また、砂漠化や土壌の塩類化などの問題も発生し、環境に悪影響を及ぼしています。

そこで、水の需要量を抑えるための対策が必要ですが、その一つとして「水の価格を上げよう」という方法が考えられています。しかし、水の価格を改定すると、水を生産要素として利用している産業や、一般家庭の家計などの地域経済全体へ影響を与えてしまいます。

（鳥取大学大学院工学研究科 生・糸賀文映）

（月1回掲載）